

近代地理学研究の流れを展望する
学史上注目に値する地理学文献を編集復刻。

日本の地理学文献選集(Ⅲ)

近代地理学の展開

全9巻 岡田俊裕編・解説

クレス出版

一九二〇年代の半ばに二つの地理学の学会が相次いで組織された。その一つは京都の地球学団であり、京都帝国大学の小川琢治を中心に一九二四（大正一三）年に設立された。もう一つは東京の日本地理学会であり、東京帝国大学の山崎直方を中心に一九二五年に設立された。前者は『地球』を、後者は『地理学評論』をそれぞれ月刊の機関雑誌として創刊する。これを機に日本の地理学は新たな展開期に入ったと見ることが出来る。以後、小川や山崎のような近代地理学の第一世代の人たちだけでなく、彼らのもとで育った第二世代の人たちの活躍も目覚しくなっていく。本叢書は、この第一世代および第二世代の活気あふれる研究動向を展望する。加えて、在野派あるいはアウトサイダーの地理学研究にも光を当てる。

日本地理学会を主な活動の場にした代表的人物は、初代会長の山崎直方であった。山崎は、関東大地震（一九二三年）を契機にして地殻変動と変動地形の究明に向かった。山崎とともに学会を支えた辻村太郎は、国内外の地形研究の成果を集約し、さらに景観地理学の研究に着手した。東京高等師範学校で山崎の教えを受けた田中啓爾は、地誌研究と地誌教育に強い指導力を発揮し、同じく西田与四郎も中等地理教育をリードした。一方、綿貫勇彦・佐々木彦一郎・山口貞夫は、東京帝国大学理学部地理学科の出身ながら、辻村太郎の学風とは異なる地域地理研究を志向した。また、同じ地理学科出身の飯本信之は政治地理学を、佐藤弘は経済地理学をそれぞれ開拓した。

地球学団を主な活動の場にした代表的人物は小川琢治である。小川は、古代中国の歴史地理研究を推進する一方、集落地理や政治地理の研究と並行して低位置氷河説を唱えるという天才ぶりを発揮した。小川の後継教授の石橋五郎は、歴史的考察を重視した地人相関論を提唱した。小川・石橋門下の田中秀作・小野鉄二・別技篤彦らは、日本との国際的関係が強まった諸地域の地誌を著し、内田寛一・小牧実繁・米倉二郎らは、それぞれ歴史地理学研究を深化させた。

一九二六（大正一五）年、日本地理学会や地球学団に対抗するかのように入文地理学会が組織され、『人文地理』誌さらに『都市地理研究』が刊行された。その中心にいた小田内通敏は、当時の地理学界の主流に与しない独自の人文地理学を構築しようとした。小田内に高く評価された三沢勝衛は、極めて実証的な郷土地理研究を精力的に行なった。この時期には地理学界のアウトサイダーというべき人たちの活躍も始まった。たとえば、京都帝国大学経済学部出身の黒正巖、東京商科大学出身の小原敬士、東京帝国大学経済学部出身の飯塚浩二などが人文地理学に新風を吹き込んだ。

一九二〇年代の半ば以降、日中戦争（日華事変）に突入する一九三七年七月頃までに日本の地理学は著しく展開し、特色ある学風が多彩に形成されていく。本叢書は、このような地理学の展開期を代表する論著のオリジナルを厳選して呈示し、その充実した研究状況を臨場感をもって展望しようとするものである。

景観地理

辻村太郎

序論

景観の意義 景観なる語の明確な定義は未だ決定出来ない。學者の間に可なり多くの意義に使用されて居るからである。然し使用されてゐる意義に就て見れば略、其の輪廓は知悉出来る。總ての科學に於けると同様に定義の提出は寧ろ晚いことが望ましいかも知れない。

景観は如何なる意義に於て使用されて居るであらうか。先づブリューヌ門下のヴァロー(C. Vallaux)は明瞭な形に於て發表した一人として、地球表面の事物、現象の選擇及び分類に關して地理學的硏究法の中に述べて居る。生物學に於ては顯微鏡に依る細胞發見の結果、此れを契機として生物體の構造並びに機能が知られたが、同様に地球表面の地理的對象の觀察に當つて細胞にも比すべき最も簡單な事物を發見しなければならぬ。若し此の事物の發見が可能ならば其れから出發して統合(Groupement) 序論 一

地球

第五卷第三號 大正十五年三月

人類の土地に及ぼす影響

小川琢治

人と人との間に行はれる相互關係は二重で、土地即ち環境が人類の生活に影響してゐると同時に人類生活も亦土地に影響してゐる。その相互關係は共に極めて密接に重り合つて互に切り離して考へ難いのである。然れども之を約言すれば一般に人類の環境から被むる影響は人文の進化と共に減少する傾向を有し、之に反して環境を生活に適當する状態に變化する能力の増進する傾向を有し、従つて人類の自然に及ぼす影響は文化の高まると共に増進し、終に我々が今日披いて見る地形圖上に歴々と認むる如き人類の土地に與へた印象を生じた譯である。

試に我が陸地測量部刊行の二萬五千分一又は五萬分一地形圖の數幅を披いて此の立場から看一看せよ。六大都市その他の人口稠密な地區の圖上に記入された種々の人類の生活と活動を意味する事項の繁多にして複雑なる唯だ驚駭するの外なく、之を離れた山嶽地のみを含む圖幅に至つて、道路網の疎らとなると共に聚落も少く、耕地の面積も狭くなるを覺える。然れども現在の日本内地では人類の土地に及ぼす影響

第1巻 山崎直方・辻村太郎

- 山崎直方
 - 「史前時代以来上総東南海岸の昇降につきて」(一九二五年)
 - 「房総半島東南部に於ける傾斜地塊に就きて」(一九二五年)
 - 「白人の豪州」(一九二五年)
 - 「但馬地震の震源」(一九二五年)
 - 「ライオン先生とライン文庫」(一九二五年)
 - 「関東地震ノ地形學的考察」(一九二五年)
 - 「東京帝国大学名誉教授小藤文次郎博士」(一九二六年)
 - 「断層地形の自然的模型」(一九二六年)
 - 「志賀重昂君を弔す」(一九二七年)
 - 「地塊の活傾動」(一九二八年)
- 辻村太郎
 - 「文化景観の形態学」(一九三〇年)
 - 「景観地理」(一九三二年、地人書館)
 - 「新考地形学 第一巻」の部分収録(一九三三年、古今書院)
 - 「景観地理学」の部分収録(一九三七年、地人書館)

第2巻 小川琢治・石橋五郎

- 小川琢治
 - 「科学としての地理学」(一九二六年)
 - 「人類の土地に及ぼす影響」(一九二六年)
 - 「人文地理学上より觀たる日本の村落」(一九二六年)
 - 「人文地理学上より觀たる日本の都市」(一九二六年)
 - 「居住地理学の問題としての日本住宅」(一九二八年)
 - 「人文地理学の一科としての政治地理学」(一九二八年)
 - 「支那歴史地理研究」の部分収録(一九二八年、弘文堂書店)
 - 「支那歴史地理研究 続集」の部分収録(一九二九年、弘文堂書店)
 - 「東京帝国大学教授山崎直方君を悼む」(一九二九年)
 - 「地学雑誌創刊以来四十二年間の本邦地学界の回顧と前途の希望」(一九三〇年)
 - 「中央日本の洪積世氷河作用に就いて」(一九三一、三二年)
 - 「中央日本氷成堆積物の分布」(一九三二、三三年)
 - 「中央及び東北日本の氷成堆積物分布に就いて」(一九三四年)
 - 「日本聚落の特性」(一九三五年)
 - 石橋五郎
 - 「政治地理学と地政学」(一九三〇年)
 - 「我が地理学觀」(一九三二年)
 - 「我国地理学界の回顧」(一九三六年)

第3巻 人文地理学会

- 「人文地理」一卷一号(一九二六年)
- 「人文地理」一卷二号(一九二七年)
- 「都市地理研究」(一九二九年、刀江書院)

第4巻 小田内通敏・三沢勝衛

- 小田内通敏
 - 「聚落と地理」の部分収録(一九二七年、古今書院)
 - 「郷土地理研究」の部分収録(一九三〇年、刀江書院)
 - 「郷土教育運動」の部分収録(一九三二年、刀江書院)
 - 三沢勝衛
 - 「地理学の本質及其研究法」(一九二九年)
 - 「郷土地理研究の教育的意義」(一九三〇年)
 - 「郷土の地理學的考察に就て」(一九三〇年)
 - 「郷土の調査とその整理」(一九三一年)
 - 「農村の地理學的研究」(一九三二年)
 - 「風土」(一九三七年)

第5巻 西田与四郎・田中啓爾

- 西田与四郎
 - 「支那の都市」(一九二五年)
 - 「世界の政治經濟地理的考察」の部分収録(一九三三年、古今書院)
 - 田中啓爾
 - 「地理学論文集」の部分収録(一九三三年、古今書院)

第6巻 田中秀作・小野鉄二・別技篤彦

- 田中秀作
 - 「滿州地誌研究」の部分収録(一九三〇年、古今書院)
 - 小野鉄二・別技篤彦
 - 「太平洋を繞る国々」の部分収録(一九三五年、章華社)

第7巻 内田寛一・小牧実繁・米倉二郎

- 内田寛一
 - 「初島の經濟地理に關する研究」(一九三四年、中興館)
 - 小牧実繁
 - 「先史地理学研究」の部分収録(一九三七年、内外出版印刷)
 - 米倉二郎
 - 「農村計画としての条里制」(一九三三年)
 - 「農令時代初期の村落」(一九三三年)
 - 「近江国府の位置に就いて」(一九三五年)
 - 「中世村落の様相」(一九三六年)

第8巻 綿貫勇彦・佐々木彦一郎・飯塚浩二・山口貞夫

- 綿貫勇彦
 - 「聚落地理学」の部分収録(一九三三年、中興館)
 - 「地理学方法論」の部分収録(一九三五年、地人書館)
 - 佐々木彦一郎
 - 「村の人文地理」の部分収録(一九三三年、古今書院)
 - 飯塚浩二
 - 「社会地理学の動向」の部分収録(一九三二年、刀江書院)
 - 山口貞夫
 - 「伊豆諸島の聚落型」(一九三五年)
 - 「種子島概観」(一九三七年)

第9巻 飯本信之・佐藤弘・黒正巖・小原敬士

- 飯本信之
 - 「政治地理学研究 上巻」の部分収録(一九三五年、中興館)
 - 佐藤弘
 - 「経済地理学総論」の部分収録(一九三三年、改造社)
 - 黒正巖
 - 「経済地理学概論」(一九三一年、改造社)
 - 「経済地理学総論」の部分収録(一九三六年、叢文閣)
 - 小原敬士
 - 「社会地理学の基礎問題」の部分収録(一九三六年、古今書院)

日本の地理学文献選集(Ⅲ) —近代地理学の展開— 全9巻

岡田 俊裕(高知大学教育学部教授) 編・解説

- 第1巻 山崎直方・辻村太郎
- 第2巻 小川琢治・石橋五郎
- 第3巻 人文地理学会
- 第4巻 小田内通敏・三沢勝衛
- 第5巻 西田与四郎・田中啓爾
- 第6巻 田中秀作・小野鉄二・別技篤彦
- 第7巻 内田寛一・小牧実繁・米倉二郎
- 第8巻 綿貫勇彦・佐々木彦一郎・飯塚浩二・山口貞夫
- 第9巻 飯本信之・佐藤弘・黒正巖・小原敬士

A5判/上製函入/クロス装 揃定価95,000円(税別)
平成20年4月末日刊行 ISBN978-4-87733-419-2(セット)

日本の地理学文献選集(I) —近代地理学の成立前夜— 全9巻

岡田 俊裕(高知大学教育学部教授) 編・解説

- 第1巻 志賀 重昂
- 第2巻 矢津 昌永
- 第3巻 内村鑑三・新渡戸稲造
- 第4巻 小藤文次郎・山崎直方
- 第5巻 小川 琢治
- 第6巻 歴史地理学者
- 第7巻 『地理と歴史』地理歴史学会発行 一
- 第8巻 『地理と歴史』地理歴史学会発行 二
- 第9巻 牧口常三郎

揃定価90,000円(税別) ISBN978-4-87733-373-7(セット)

日本の地理学文献選集(Ⅱ) —近代地理学の形成— 全8巻

岡田 俊裕(高知大学教育学部教授) 編・解説

- 第1巻 山崎 直方
- 第2巻 小川琢治・田中秀作
- 第3巻 中目 覚
- 第4巻 小田内通敏
- 第5巻 石橋五郎・内田寛一・小野鉄二
- 第6巻 辻村太郎・大関久五郎
- 第7巻 牧口常三郎
- 第8巻 西田与四郎・西亀正夫・三沢勝衛

揃定価94,000円(税別) ISBN978-4-87733-374-4(セット)